

学校だより 5月号

令和5年5月1日  
鴻巣市立小谷小学校

# 小谷っ子

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成

TEL 048 (548) 1004

FAX 048 (547) 1467

URL <https://koya-e-konosu.edumap.jp/>

e-mail [koya-e@city.konosu.ed.jp](mailto:koya-e@city.konosu.ed.jp)

毎月19日は「食育の日」です



みなさんで、ともに



校長 棚澤 大輔

先日の授業参観・PTA 総会・学級懇談会では、多くの保護者の皆様にご参加いただき、ありがとうございました。保護者の皆様には、学級懇談会の中でお子様への思いをお話いただきましたが、これから学校教育を進めるにあたって大変参考になりました。保護者の皆様の思いを胸に学校教育活動を進め、これからも子どもたちの成長を支援してまいります。

先日新聞を読んでいましたら、「コウノトリ待望の産卵」との記事を目にしました。「鴻巣」の由来とも言われているコウノトリ。本市では、自然と共存する持続可能なまちづくりのシンボルとして人にも生きものにもやさしい「コウノトリの里」実現を目指し、明用地内に鴻巣市コウノトリ野生復帰センター「天空の里」を設置し、コウノトリのつがい（「空」と「花」）を飼育しています。本校でも、2年生が町探検で見学するなど、お世話になっているところです。初めての産卵ということもあり、孵化するのが大変楽しみなところです。

さて、鳥の卵の話で思い出す言葉があります。それは「啐啄同時」という言葉です。この言葉はもともと禅の世界のもので、師匠と弟子との関係を表した言葉です。

「啐」とは、卵の中の雛が「もうすぐ生まれますよ」と内側から殻をつつく音。

「啄」とは、その音に気づいた親鳥が「さあ、出てきなさい」と外側から殻をつつく音。

この「啐」と「啄」が同時に行われるのが理想で、雛鳥が十分に育つ前に親鳥が殻を外から破ってしまうと、時期尚早で、雛は身の危険にさらされ、生きていくことができないかもしれない。逆に、親鳥が雛鳥の変化に気づかずに、外から殻をつつかなければ、殻の中で力尽きてしまうかもしれない。だから「啐」と「啄」は同時でなければならないということです。



この話は、教える者と教わる者との関係性について語るときによく用いられるものです。教える者にとって、技術や知識を適切に教えることは必要なことですが、もっと大切なことは、教え子があと一步で殻を破ることができる頃合いを見逃さず、どこを破ればいいのかをそっと示して、その成長を促してあげることだと、私も若手教員時代に大先輩から教わった記憶があります。その頃合いを見定めるには、子どもたちをよく見る眼が大切で、音なき「啐」を感じ取る感覚を養いなさいと言われました。そのために子どもたちとともに過ごすことを第一に考えなさいとも教わりました。

子どもの様子を見ているうち、耳で聞いているうちに、子どもの小さな変化に気づくことがあります。その時、きっかけの言葉を与えたり、ほんの少し手助けをしたりすることで、子どもたちは自分自身の力で大きく羽ばたき、成長していきます。しかし、そのタイミングは学校だけでは限りません。ご家庭で過ごしているときかもしれません。もしくは、地域で活動しているときかもしれません。そのタイミングを逃さないためにも、学校・家庭・地域が子どもの成長への思いや考えを共有し、共に子どもたちを育てていくことが大切なのだと、あらためて感じるところです。

懇談会や個人面談等で保護者の皆様からお聞きする我が子への思い。また、ご協力いただいている地域の皆様からの、地域の子供たちへの思い。学校といたしましては、そういった思いに耳を傾けるとともに、保護者・地域の皆様に学校の方針や教育活動の状況を積極的にお伝えすることで、「共育」を進めてまいりたいと考えています。

今月も保護者・地域の皆様、ご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



学校での子どもたちの様子を学校ホームページで公開しております。行事や日頃の授業風景などこまめに更新しておりますので、ご覧ください。（<https://koya-e-konosu.edumap.jp/>）